

# 評価結果報告書

## 地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	4270401369
法人名	社会福祉法人 福翠会
事業所名	グループホーム 花の里
訪問調査日	平成 21 年 3 月 6 日
評価確定日	平成 21 年 9 月 30 日
評価機関名	社会福祉法人 長崎県社会福祉協議会

### ○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

### ○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

### ○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

# 1. 調査報告概要表

## 【評価実施概要】

事業所番号	4270401369
法人名	社会福祉法人 福翠会
事業所名	グループホーム 花の里
所在地 (電話番号)	長崎県諫早市福田町3316-3 (電話) 0957-21-7778

評価機関名	長崎県社会福祉協議会
所在地	長崎市茂里町3-24
訪問調査日	平成20年3月27日

## 【情報提供票より】(20年2月1日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成18年2月1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	18 人	常勤 15 人, 非常勤 3 人, 常勤換算	15.3

### (2) 建物概要

建物形態	併設/単独	新築/改築
建物構造	鉄筋コンクリート	造り
	3階建て	3階 ~ 1階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000 円	その他の経費(月額)	9,500 円	
敷金	有( ) 円	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有( ) 円	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり		1,250 円	

### (4) 利用者の概要(4月1日現在)

利用者人数	18 名	男性	2 名	女性	16 名
要介護1	2 名	要介護2	3 名		
要介護3	8 名	要介護4	2 名		
要介護5	3 名	要支援2	名		
年齢	平均 87.2 歳	最低 70 歳	最高 100 歳		

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	西諫早病院、本多医院、いかり内科クリニック、本多歯科クリニック
---------	---------------------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

諫早市の北西部、田園に囲まれた静かな環境の中にあるこのホームは、地域密着型サービスとして、運営推進会議の開催、地域の行事や活動への参加、地元住民、子どもたちとのふれあいを重視した取り組みが、職員一人ひとりに浸透し、常に地域を見据えている。また、温かい雰囲気の中で「いつも笑顔で」「思いやりの気持ち」をテーマに、認知症の高齢者が、笑顔で安心して、地域の中で暮らし続けることができるよう支援して行くことを目標に、独自の理念を掲げ、心のこもった真のサービスの向上に日々努力している。また、地域との協力関係を深め、地域とともに、地域の中の一員をモットーに、管理者と職員が丸となったチームワークのもとに、利用者一人ひとりを尊重し、個性を活かした家庭的なグループホームづくりに努めている。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>管理者及び職員一人ひとりが評価の意義を十分に理解し、評価を前向きに捉え自己評価は職員全員で取り組み、日々のミーティングや勉強会などで、サービスの質の向上をめざした検討を行っている。また、外部評価についても、ミーティングで事例をあげながら、具体的な勉強会を行うなど改善に向けた取り組みを実践している。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>評価を前向きに捉え、今回の自己評価も職員全員で取り組むなど、ミーティングや勉強会では、さらなるサービスの質の向上を目指した検討が行われている。さらに、運営推進会議へ報告し意見を聴くなど、評価の結果をサービスの向上に繋げていく努力がなされている。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進会議は、平成19年度は2回開催されており、会議録もきちんと整理している。第1回会議では、平成18年度外部評価の報告、今後の方針、意見交換を、第2回会議では、介護に係る情報提供、平成19年度外部評価への取り組み、職員の資質の向上等について報告や意見交換が行われている。会議で出た意見や提案については、ミーティングや勉強会等で十分に検討を加えながら、サービスの質の向上に日々努力されている。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>家族の意見、苦情、不安への対応については、常に親しみをもって話しかけたり、問いかけたりしながら何でも気軽に話してもらえる雰囲気づくりに留意されている。ご家族等から提案された意見や要望については、申し送りやミーティングで話し合い日々のケアに反映する仕組みが確立されている。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>地域の行事や活動へ利用者とともに積極的に参加することは勿論、ホームの行事にも地域の方々に多数参加していただくなど、地元の人々や子供たちとのふれあいを重視した交流に努めている。また、法人の設立理念である「地域とともに、地域の一員として」の基本姿勢は、職員一人ひとりに浸透し、人々の心を和ませる雰囲気が漂っている。</p>

## 2. 評価結果(詳細)

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	開設当初から一貫して地域を見据え、利用者とスタッフが温かい雰囲気の中で地域に根ざしている。認知症の高齢者が、その人らしく安心して暮らし続け、笑顔でやさしく、ゆっくりとした生活を取り戻せるよう、法人の理念である「いつも笑顔でほがらかに」のもとに、「やすらぎ」と「思いやりの気持ち」をもって、サービスの向上に日々努力されている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	地域の中で、その人らしく、明るく笑顔で安心して暮らし続けることができるよう支援していくことを目標に、ユニット毎にそれぞれわかりやすい「理念」と「職員の心構え」を掲げている。日々のケアの中で、いつでも、どこでも活かせるよう、ミーティングや申し送りなど、機会あるごとに触れ、確認し合い、管理者と職員が一丸となって理念の共有、具体化に努めている。		
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	利用者と共に地域の行事への参加は勿論、ホームの行事(夏祭り、餅つき大会等)にも、多くの方々に参加していただくなど、地元との交流を重視した活動を展開している。また、法人の設立当初からの基本姿勢「地域と共に、地域の一員として」は職員一人ひとりに浸透し、人々の心を和ませる雰囲気が漂っている。		
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者及び職員一人ひとりが評価の意義を十分に理解し、評価を前向きに捉え自己評価は職員全員で取り組み、日々のミーティングや勉強会で、さらなるサービスの質の向上をめざした具体的な検討を行っている。また、外部評価についても、ミーティングで事例をあげながら、具体的な勉強会を行うなどサービスの質の向上に向けた取り組みを行っている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今年度は2回開催されており、会議録もきちんと整理されている。会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いが行われている。会議における意見や提案事項については、ミーティングや勉強会等において十分に検討を加えながら、サービスの向上に向けた取り組みを行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	行政の窓口には、手続きや問い合わせ等で時々訪問している。事業所の実績やケアサービスの取り組み等、地域密着型サービスの向上に向けた連携も積極的に行っている。	○	行政には、福祉を推進する地方自治の立場として、グループホームの真の理解者となっていただくことも重要なことであり、例えば市職員の研修の場に事業所を活用してもらおうよう提案することなどについても検討されるとさらに効果的ではないだろうか。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	毎月1回、担当スタッフにより、個別のおたより(手書き)で現況を報告するとともに、写真なども一緒に添えるなど、個々人に合わせた報告が行われている。また、家族の訪問の際には、写真を見てもらったり、生活記録や金銭出納帳なども見てもらい、その都度、家族からの確認印やサインをもらっている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族には手紙や訪問の際に、常に親しみをもって話しかけたり、問いかけたり、何でも気軽に話して貰えるような雰囲気づくりに留意されている。家族から提案された意見や要望等については、申し送りやミーティングで話し合い、日々のケアに反映する仕組みが整っている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	利用者や家族との信頼関係を築くため、馴染みの職員(担当スタッフ)によるケアを心がけている。やむを得ない職員異動(退職等)の際には、利用者や家族に不安や不満を抱かせないよう、家族会や面会の際などきちんとした説明を行っている。新任職員への勤務引継ぎも一定期間、他の馴染みの職員に付き添わせながら徐々に行うなどの配慮をしている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業所外で開催される研修にも、なるべく多くの職員が受講できるよう勤務調整、研修費用の負担などの配慮がなされている。また、研修に参加した後は、研修報告書を管理者へ提出するとともに、定例の勉強会で報告する仕組みとなっている。また、研修報告書は全職員が閲覧し研修内容を共有できるようにしている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	社会福祉協議会や、グループホーム連絡協議会等が主催する研修会、行事に参加することにより、同業者との意見(情報)交換などの交流を行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	家族と相談しながら、本人や家族、入居までかかわっておられた関係者に来てもらったり、状況に応じて一緒に宿泊してもらうなどを繰り返しながら、本人がホームの生活に安心感を持って馴染めるように努めている。また、家庭で使用されていた馴染みの家具などを置き、家庭との違和感をなくす雰囲気づくりにも配慮している。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	「ホームの主は利用者である」という考えを、職員一人ひとりが共有し利用者のケアに当たっている。また、普段から利用者に調理の技や工夫を教えてもらう場面も多く、そういった場面を多く持つよう、声かけやセッティングに配慮している。利用者の思いや喜びを共有するとともに、共に支え合う関係づくりの支援を行っている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
<b>1. 一人ひとりの把握</b>					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々のかかわりの中で、利用者一人ひとりの思いや暮らし方の把握に努めている。また、意思疎通が困難な方には、家族から情報を得たり、寄り添いながら本人に思いや意向をそれとなく確認し、本人にとってどこで、誰と、どのように暮らすことが最良なのかについて家族を交えた検討も行われている。		
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者が自分らしく暮らせるよう、アセスメントも含め職員全員で意見交換を行いつつ、より具体的な介護計画の作成が行われている。本人や家族には、日頃のかかわりの中で、思いや意見を聞き、介護計画に反映させるよう努めている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的な見直しは勿論、状態変化や家族・利用者の希望等に応じた見直しも随時行われており、きちんと記録されている。日頃の関わりは、介護計画に基づいて展開しており、関わりの中での職員の気づきや意見は、申し送りノートに記録され、朝夕の申し送りやミーティング等で随時検討されている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者や家族の状況に応じて通院やリハビリへの同行など必要な支援は、柔軟に対応し個々人の満足感を高めるよう努力している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診や通院等については、ご家族と利用契約時に話し合いのうえ、受診する医療機関を設定する仕組みとなっている。また、利用者の主治医、ご家族、ホームの協力医療機関等々と協議のうえ、適切な医療を受けられる支援体制も整っており、受診や通院は家族の同意のもとにホームの職員による対応支援が行われている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	利用の際に、利用者及び家族等の希望を聞き、双方で納得のいく話し合いが行われている。また、できるだけ早い段階から、利用者や家族、かかりつけ医、協力病院等々とも繰り返し話し合いを行い、重度化や終末期に向けた支援に係る方針決定の仕組みが共有されている。指針も整備している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	勉強会やミーティングの折に、プライバシーの確保徹底に係る職員の意識向上を図るとともに、利用者一人ひとりに尊敬の念をもって接し、利用者の誇りやプライバシーを損ねない対応(個々人に合わせた言葉づかいやプライドを傷つけない取り組み)が図られている。また、個人情報保護にも全力で取り組んでいる。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な1日の流れは決めてあるが、時間を区切った過ごし方はしていない。利用者の体調に配慮しながら、その日、その時の利用者個々人の気持ちを尊重して、一人ひとりのペースに合わせた支援が行われている。起床や食事の時間も柔軟に対応されている。また、一人ひとりのペースに合わせた食事支援が行われてい		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)	
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援						
	22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者や職員と一緒に料理の本などを見ながら、利用者の好みを活かした献立をつくり、食材選びから、調理、盛り付けにいたるまで利用者とともにやり、利用者と職員と一緒にテーブルを囲んだ楽しい食事支援が行われている。また、食べこぼしのサポートもさりげなく行っている。		
	23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は、一応、週に3回を基準にしているが、利用者の希望に合わせて、利用者が入浴したい時に、いつでも希望する時間に、入浴を自由に楽しめる支援が行われている。利用者の体調に合わせて足浴などの支援も行われている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援						
	24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	職員主導ではなく、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごとが持てるよう、利用者話し合いながら外出や買い物、ドライブなど気晴らし支援を行ったり、花や野菜づくりなど経験や知識を発揮できるような、場面づくりの支援も行っている。訪問当日は、ディルームの清掃、食器洗い、調理などの支援を行っていた。		
	25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者本人の気分や希望、天候に合わせて、できるだけ外気に触れて季節感を肌や目で感じてもらい、心身の活性に繋げるよう日常的に散歩、買い物やドライブ等に出かけている。		
(4) 安心と安全を支える支援						
	26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	職員に見守りの方法(見守り、モニター監視装置による観察など)を徹底し、日中は玄関の鍵をかけずに自由な暮らしを支援している。利用者が外出しそうな気配を察知したら、止めるのではなく、さりげなく声をかけて一緒について行くなど、安全面に配慮した支援を行っている。また、ごく自然に、さりげなく「見守る」ことを基本としたケアを行っている。		
	27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	火災等災害マニュアルを作成し、マニュアルに基づき訓練を実施している。訓練を実施した後は、振り返りを行い、記録もきちんと整理されている。また、避難誘導口の点検は勿論、消火器の点検や使い方の訓練も定期的に行っており、避難場所についても、全職員が周知している。所轄の消防署、地元消防団との連携のもとに、火災や災害を想定した訓練等も行われている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分などの摂取状況は一日を通じてチェック表に記録し、全職員が情報を共有している。また、職員は利用者一人ひとりの食事摂取量を把握するとともに、おまかに栄養摂取量も把握しているほか、法人系列の施設の管理栄養士に献立を見てもらいアドバイスを受けている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	フロアの飾りつけ、居間や食堂の家具の配置等、利用者と一緒に考え、利用者が自分の住んでいる家だという意識を高めてもらえるよう工夫をしている。居間にはソファや椅子、コタツなどを置き、利用者の居場所の確保にも配慮をしているほか、利用者と職員の手づくりのカレンダーを掛け、花を随所に生けるなど、ごく自然に季節感を漂わせる工夫が窺えた。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、馴染みのタンスや写真など使い慣れた日用品が持ち込まれている。利用者の好みや習慣等を見出し、本人や家族の意向を確認しながら、家具の配置を考えたり、観葉植物を置いたり、季節の花を飾るなど居心地のよい居室づくりに取り組んでおられる。利用者に合わせた温湿度調整や室内の換気が十分に行われていて、快適な環境であった。		